

第 69 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(令和 3 年 11 月調査)

～ 景況感は 5 期ぶりに悪化 ～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲12.3 (前回調査比 14.3 ポイント下落) と **5 期ぶりに悪化**し、再びマイナスに転じた。「各種 D I 値 (前年同期比)」をみると、「売上高」「営業利益」は 5 期ぶりの悪化、「資金繰り」は小幅ながら 2 期連続の悪化となった。「人員・人手」は 3 期連続でプラス幅が拡大した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、建設業が▲12.3 (前回調査比 5.5 ポイント下落)、製造業が▲5.7 (前回調査比 12.5 ポイント下落)、卸・小売業が▲21.7 (前回調査比 17.6 ポイント下落)、サービス業が▲11.3 (前回調査比 22.6 ポイント下落) と、**すべての業種で悪化**となり、製造業とサービス業でマイナスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、村山南部が▲19.3 (前回調査比 23.0 ポイント下落)、村山北部が▲3.8 (前回調査比 11.7 ポイント下落)、最上が▲5.1 (前回調査比 5.1 ポイント下落)、置賜が 2.0 (前回調査比 3.4 ポイント下落)、庄内田川が▲5.1 (前回調査比 3.6 ポイント下落)、庄内飽海が▲30.5 (前回調査比 27.6 ポイント下落) と、**すべての地域で悪化**となった。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲9.1 (今回調査比 3.2 ポイント上昇) と改善の見込みとなっている。過去最大の新型コロナ感染拡大となった第 5 波等の影響から、持ち直しの動きには停滞感がみられ、先行きについても、ワクチン接種の広がりに伴う経済活性化への期待はうかがえるものの、感染再拡大を警戒する動きは依然強く、慎重な見通しが続く。

【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 59.3% (前年比 3.2 ポイント上昇) と、3 年ぶりに上昇となった

令和 3 年 12 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別DI値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	5
③	卸・小売業	7
④	サービス業	9
3.	地域別の動向	11
(1)	地域別の概況	11
(2)	地域別DI値の動向	12
①	村山南部	12
②	村山北部	13
③	最上	14
④	置賜	15
⑤	庄内田川	16
⑥	庄内飽海	17
II.	景気の天気予報図	18
III.	特別調査	19
1.	冬季ボーナスについて	19
(1)	支給予定動向	19
(2)	支給予定額	21
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>		23
<参考資料 II : 調査の概要>		23

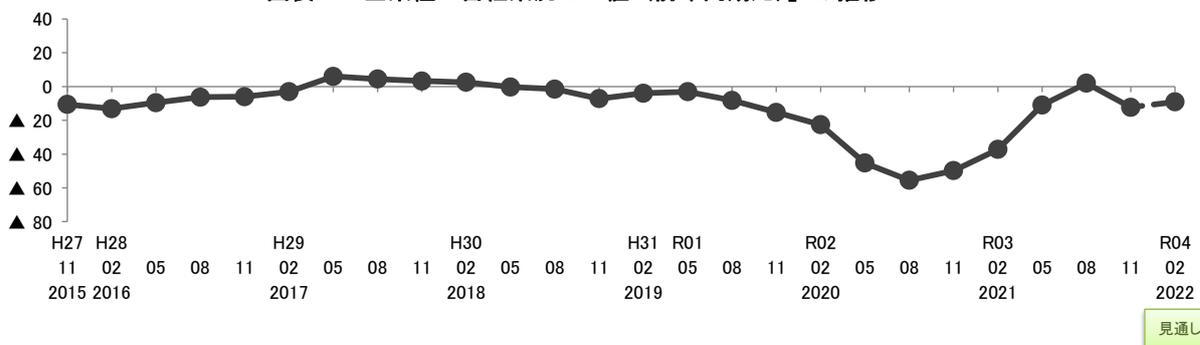
I. 県内企業の業況

1. 概況

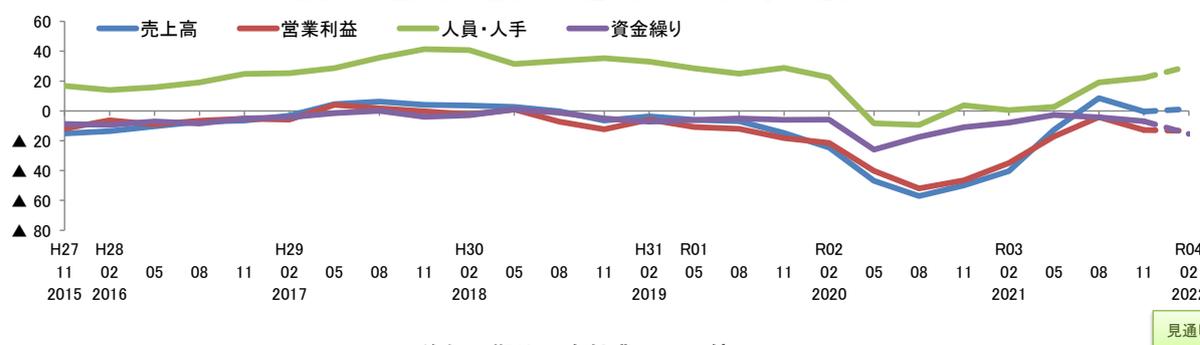
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲12.3（前回調査比 14.3 ポイント下落）と5期ぶりに悪化し、再びマイナスに転じた。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」は5期ぶりの悪化、「資金繰り」は小幅ながら2期連続の悪化となった。「人員・人手」は3期連続でプラス幅が拡大した。

先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲9.1（今回調査比 3.2 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。過去最大の新型コロナ感染拡大となった第5波等の影響から、持ち直しの動きには停滞感がみられ、先行きについても、ワクチン接種の広がりに伴う経済活性化への期待はうかがえるものの、感染再拡大を警戒する動きは依然強く、慎重な見通しが続く。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 02. 11 (n=408)	▲ 49.8	(5.7)	▲ 50.6	▲ 50.0	▲ 46.6	3.7	▲ 11.0
R 03. 02 (n=397)	▲ 37.2	(12.6)	▲ 28.7	▲ 40.3	▲ 35.0	0.5	▲ 7.8
R 03. 05 (n=409)	▲ 11.0	(26.2)	▲ 39.6	▲ 12.7	▲ 17.1	2.7	▲ 2.7
R 03. 08 (n=393)	2.0	(13.0)	▲ 16.2	8.6	▲ 4.1	19.0	▲ 4.3
R 03. 11 (n=398)	▲ 12.3	(▲ 14.3)	▲ 15.5	▲ 0.5	▲ 12.8	22.1	▲ 7.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 9.1)	(▲ 8.7)	(3.1)	(▲ 2.7)
先行き見通し	▲ 9.1	-	-	1.3	▲ 13.4	29.9	▲ 15.4
今回調査比	(3.2)	-	-	(1.8)	(▲ 0.6)	(7.8)	(▲ 8.4)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

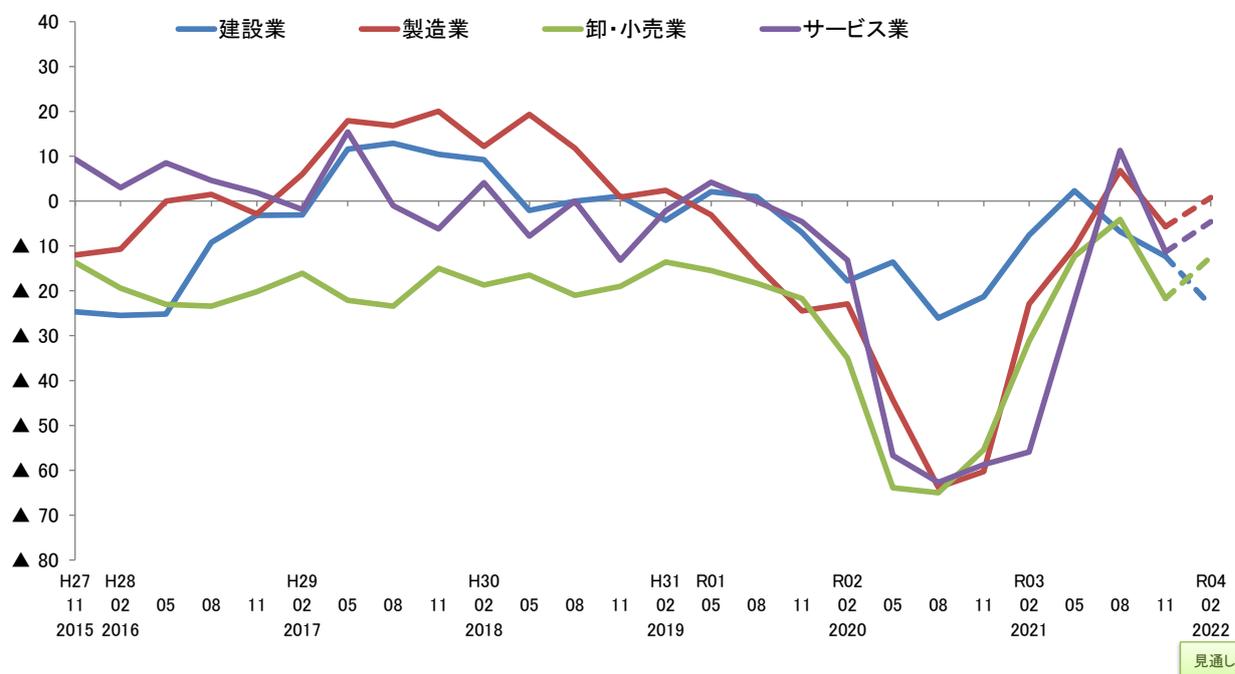
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲12.3（前回調査比 5.5 ポイント下落）、製造業が▲5.7（前回調査比 12.5 ポイント下落）、卸・小売業が▲21.7（前回調査比 17.6 ポイント下落）、サービス業が▲11.3（前回調査比 22.6 ポイント下落）と、すべての業種で悪化となり、製造業とサービス業でマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、建設業で悪化が見込まれるものの、製造業、卸・小売業、サービス業で改善の見込みとなっている。

図表 3 業種別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 11 (n=408)	▲ 49.8	▲ 21.3	▲ 60.3	▲ 55.4	▲ 58.7
R 03. 02 (n=397)	▲ 37.2	▲ 7.6	▲ 22.9	▲ 31.2	▲ 55.9
R 03. 05 (n=409)	▲ 11.0	2.3	▲ 10.3	▲ 12.3	▲ 22.2
R 03. 08 (n=393)	2.0	▲ 6.8	6.8	▲ 4.1	11.3
R 03. 11 (n=398)	▲ 12.3	▲ 12.3	▲ 5.7	▲ 21.7	▲ 11.3
前回調査比	(▲ 14.3)	(▲ 5.5)	(▲ 12.5)	(▲ 17.6)	(▲ 22.6)
先行き見通し	▲ 9.1	▲ 23.3	0.8	▲ 12.4	▲ 4.6
今回調査比	(3.2)	(▲ 11.0)	(6.5)	(9.3)	(6.7)

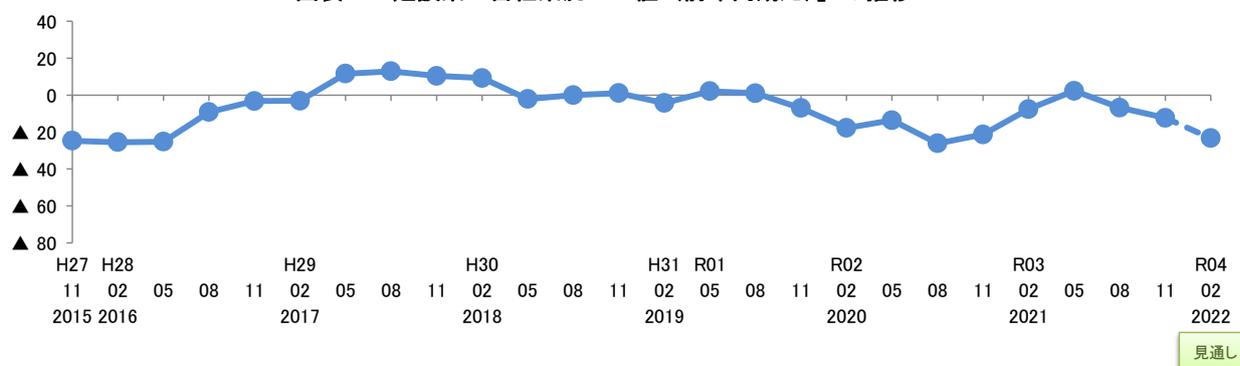
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

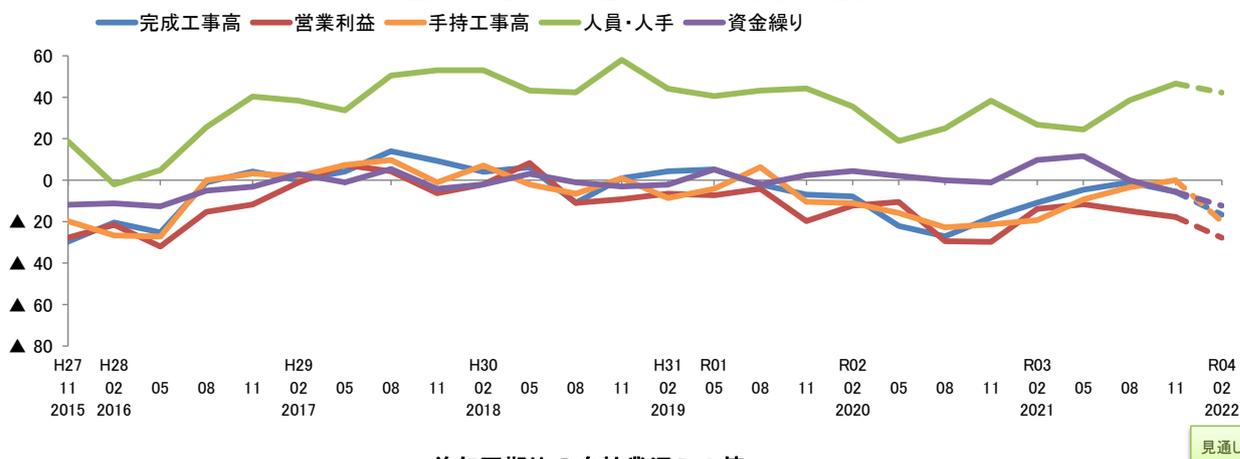
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲12.3（前回調査比 5.5 ポイント下落）と、2 期連続の悪化となっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「手持工事高」は改善、「完成工事高」「営業利益」「資金繰り」は悪化した。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントから、木材を始めとする資材価格の高騰や人手の確保困難などによる工期の遅延を危惧している様子がうかがえる。作業員の高齢化、求職者数の減少、職人の育成や技術継承など人材面を課題としている企業が複数みられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲23.3（今回調査比 11.0 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
R 02. 11 (n=94)	▲ 21.3	(4.8)	▲ 36.9	▲ 18.1	▲ 29.8	▲ 21.3	38.3	▲ 1.0
R 03. 02 (n=93)	▲ 7.6	(13.7)	▲ 26.6	▲ 10.8	▲ 13.9	▲ 19.3	26.8	9.7
R 03. 05 (n=86)	2.3	(9.9)	▲ 37.6	▲ 4.6	▲ 11.6	▲ 9.3	24.4	11.6
R 03. 08 (n=88)	▲ 6.8	(▲ 9.1)	▲ 16.3	▲ 1.1	▲ 14.8	▲ 3.4	38.6	0.0
R 03. 11 (n=90)	▲ 12.3	(▲ 5.5)	▲ 23.9	▲ 5.6	▲ 17.7	0.0	46.6	▲ 5.6
前回調査比	-	-	-	(▲ 4.5)	(▲ 2.9)	(3.4)	(8.0)	(▲ 5.6)
先行き見通し	▲ 23.3	-	-	▲ 16.6	▲ 27.8	▲ 20.0	42.2	▲ 12.3
今回調査比	(▲ 11.0)	-	-	(▲ 11.0)	(▲ 10.1)	(▲ 20.0)	(▲ 4.4)	(▲ 6.7)

業界の声

Q. 今期の業況について

- 東北地区の工事は、減少傾向が続いているが、首都圏を中心に再開発工事やインフラ整備関連工事の需要がある。コロナ禍の影響で民間工事の計画見直し等の影響があり、ゼネコンの受注競争により工事単価の減少がある。(村山南)
- ウッドショックで木材の価格が 40%アップ、板金も 30%アップしている。このまま続くと売価も値上げせざるを得ない状況である。(村山北)
- 建設業界は比較的コロナの影響が少ない業種であるが、年々公共工事の予算が減少しており、業況は厳しくなっている。また、建設技術者不足が継続しており雇用が難しくなっている。(最上)
- ウッドショックやさまざまな資材・燃料の高騰により、受注済み工事の利幅が減っている。また、その影響で一般住宅等の着工を見合わせる状況も出ている。(置賜)
- 受注は順調にあるが、建築資材が思うように入らなかったり、製品の入荷期日が先送りになったりして工程に影響を及ぼしている。(庄内田川)
- 受注予定工事の発注時期が遅れており、小工事が多く、売上高・利益額共に伸び悩んでいる。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

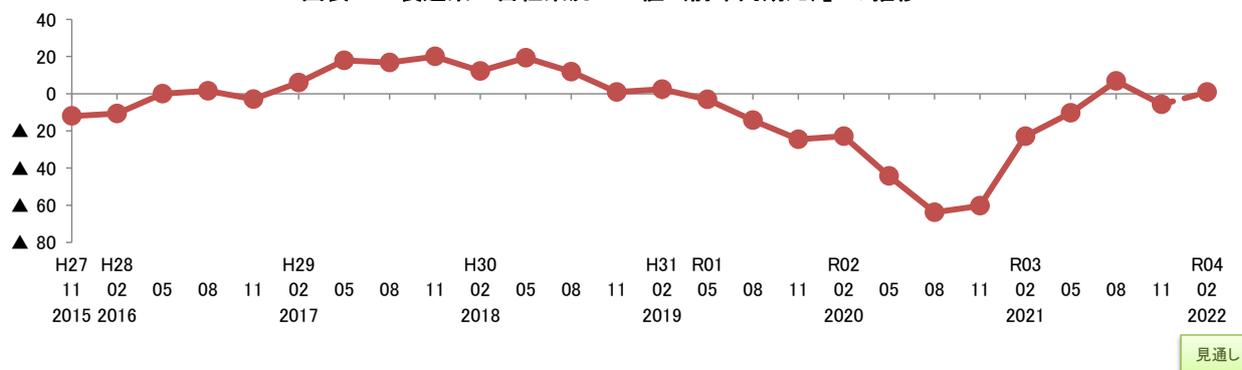
- 技能実習生が期間満了により帰国できるようになりつつあるが、代わって入国する実習生の入国が困難な状況にあり、人手不足に拍車をかけている。(村山南)
- 従業員の高齢化に伴って、若い世代の採用を検討しているが、募集してもなかなか応募がない。(村山北)
- 高齢者が入場できない、制限付きの現場がある。今後、高齢者でも働ける土木以外の事に進出したいと思い、水耕栽培を試験的に行っている。(最上)
- ウッドショック等資材調達難がどこまで続くか、機器の搬入予定がいつごろ通常時のように戻るかなど、不安材料が多い。一度アップした資材の単価が元に戻るのか不安である。(置賜)
- 公共工事はまずまずであるが、民間の建築で設備投資に慎重な企業が多く、受注減を心配している。(庄内田川)
- 新しいマーケット拡大に努めているものの、コロナ禍で客先との面談率は低位で推移している。(庄内飽海)

② 製造業

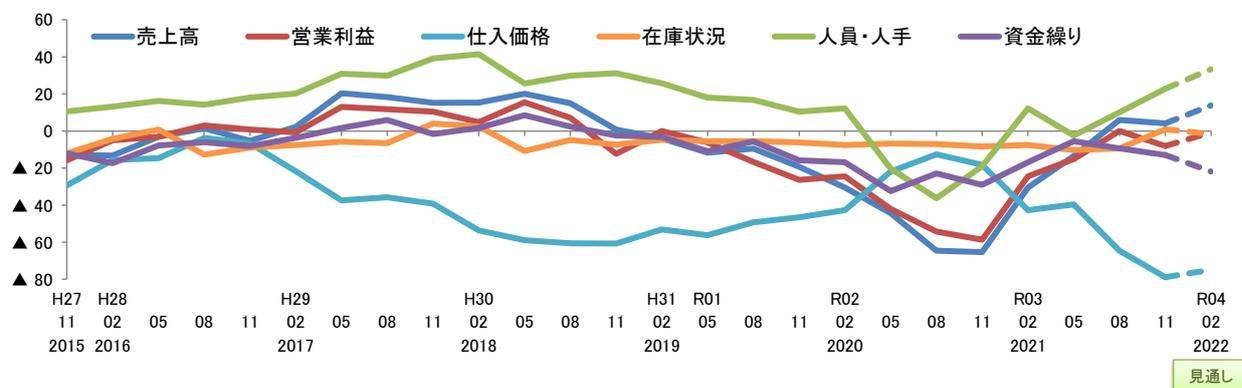
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲5.7（前回調査比 12.5 ポイント下落）と 5 期ぶりの悪化となり、マイナスに転じた。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「在庫状況」は改善となったものの、「売上高」「営業利益」「仕入価格」「資金繰り」は悪化となった。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントから、特に自動車関連で減産や半導体、電子部品の調達難などの影響を受けて持ち直しの動きに鈍さがみられる。また、総じて原材料費や燃料費の高騰に伴うコストの上昇を不安視する内容が多く、先行きへの警戒感は依然として強い。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が 0.8（今回調査比 6.5 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 02. 11 (n=121)	▲ 60.3	(3.5)	▲ 48.8	▲ 65.3	▲ 58.7	▲ 18.2	▲ 8.3	▲ 19.0	▲ 29.0
R 03. 02 (n=118)	▲ 22.9	(37.4)	▲ 26.4	▲ 30.5	▲ 24.4	▲ 42.7	▲ 7.6	12.2	▲ 16.8
R 03. 05 (n=126)	▲ 10.3	(12.6)	▲ 29.0	▲ 13.5	▲ 15.1	▲ 39.6	▲ 10.3	▲ 2.4	▲ 5.5
R 03. 08 (n=118)	6.8	(17.1)	▲ 8.7	5.9	0.0	▲ 64.5	▲ 9.3	10.1	▲ 9.3
R 03. 11 (n=123)	▲ 5.7	(▲ 12.5)	▲ 4.3	4.1	▲ 8.1	▲ 78.9	0.9	22.8	▲ 13.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 1.8)	(▲ 8.1)	(▲ 14.4)	(10.2)	(12.7)	(▲ 3.7)
先行き見通し	0.8	-	-	13.8	▲ 0.8	▲ 74.8	▲ 1.6	33.4	▲ 21.9
今回調査比	(6.5)	-	-	(9.7)	(7.3)	(4.1)	(▲ 2.5)	(10.6)	(▲ 8.9)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 東南アジアでのコロナ拡大に伴う半導体・ハーネスの減産による自動車生産台数の減産が大きく影響している。今後の自動車メーカーの生産動向に売り上げも大きく影響を受ける可能性が高い。(村山南)
- 半導体不足の影響により、自動車関連産業からの受注時期が延びたり中止になったりしている。半導体関連顧客は積極的に設備投資している。(村山北)
- 現在、鋼材価格が高騰しており入手難だが、今後も続く見通しである。その他、副資材も含めて値上がりが続く。(最上)
- 昨年より動きが鈍化、業界全体においても同じ傾向がみられる。原料の不足、資材の価格上昇が続いている。(置賜)
- 原油高はどの業界にも悪影響を与えている。仕事はあるが人手が足りず、新たな顧客も獲得できない。(庄内田川)
- 物件減少による売上減、材料の高騰・入手難による経費増が大きく影響している。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

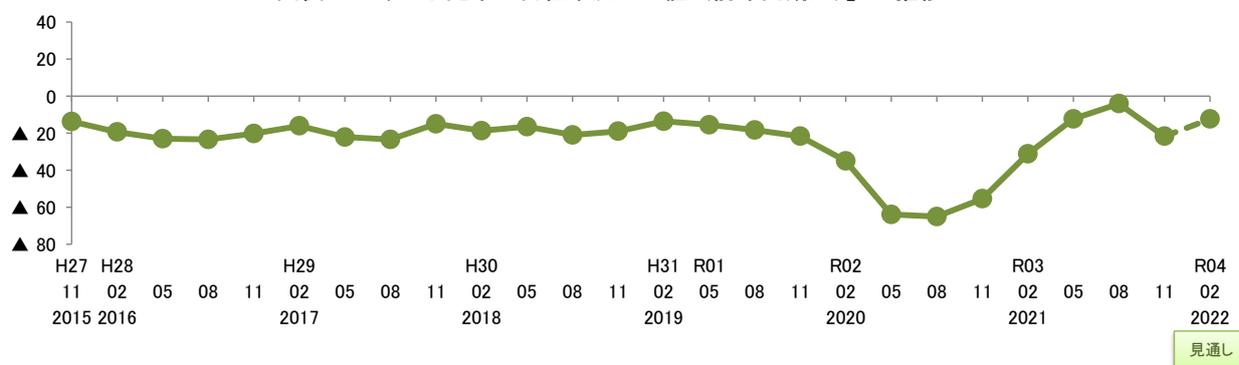
- 2022 年立ち上がりの新車搭載部品の量産に向け、大型設備の投資を進めている。また、次世代自動車部品の開発・新規契約に注力している。(村山南)
- 経費削減の実施や SDGs の取り組みを検討している。コロナが落ち着いてきたこともあり、営業活動を積極的に行っていく予定である。(村山北)
- 生産性向上、人材育成を重視している。(最上)
- 自社商品の価格改定（値上げ）をどうするかが問題となっており、様子を見ながら判断したい。来春以降の新年度に向けて商品改廃などに取り組んでいる。(置賜)
- 電子部品の入手が困難になっている影響で、売上高の減少が懸念される。(庄内田川)
- 物件数の改善時期は見通せない状況となっている。材料の高騰・入手難は要因が多岐にわたり、見通しが不透明である。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

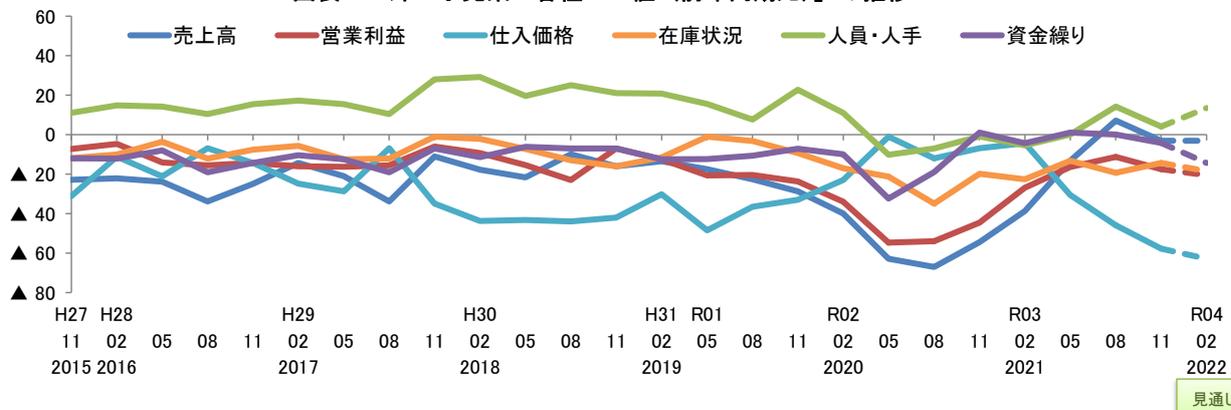
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲21.7（前回調査比 17.6 ポイント下落）と5期ぶりに悪化となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「在庫状況」は改善となった一方で、「売上高」「営業利益」「仕入価格」「資金繰り」は悪化となった。「人員・人手」はプラス幅が縮小した。各社のコメントから、輸入停滞や半導体不足などが要因で、さまざまな業種において欠品や入荷の遅れが発生している状況がうかがえる。また、仕入価格や輸送費は上昇しているものの、販売価格の値上げにはなかなか踏み切れず、利益率の低下に苦慮しているといった内容もみられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲12.4（今回調査比 9.3 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 02.11 (n=101)	▲ 55.4	(9.6)	▲ 60.0	▲ 54.5	▲ 44.6	▲ 6.9	▲ 19.8	▲ 0.9	1.0
R 03.02 (n=93)	▲ 31.2	(24.2)	▲ 31.7	▲ 38.7	▲ 26.9	▲ 4.3	▲ 22.6	▲ 5.4	▲ 4.3
R 03.05 (n=98)	▲ 12.3	(18.9)	▲ 37.6	▲ 13.2	▲ 16.4	▲ 30.6	▲ 13.3	0.0	1.0
R 03.08 (n=98)	▲ 4.1	(8.2)	▲ 22.4	7.1	▲ 11.3	▲ 46.0	▲ 19.4	14.2	0.0
R 03.11 (n=97)	▲ 21.7 (▲ 17.6)		▲ 20.4	▲ 3.1	▲ 17.5	▲ 57.8	▲ 14.4	4.1	▲ 4.2
前回調査比	-	-	-	(▲ 10.2)	(▲ 6.2)	(▲ 11.8)	(5.0)	(▲ 10.1)	(▲ 4.2)
先行き見通し	▲ 12.4	-	-	▲ 3.1	▲ 20.6	▲ 62.9	▲ 18.5	13.4	▲ 14.4
今回調査比	(9.3)	-	-	(0.0)	(▲ 3.1)	(▲ 5.1)	(▲ 4.1)	(9.3)	(▲ 10.2)

Q. 今期の業況について

業界の声

- コロナの収束に伴い、少しずつ経済活動が動き始めているが、まだまだコロナ前の動きには戻っていない。(村山南)
- 飼料が高騰している一方で、比較的堅調に推移していた相場が下落傾向にあり、畜産業界としては厳しい状況である。(村山南)
- コロナウイルスの影響で商品の欠品が出てきている。また、燃料費と商品価格が上がっているのので、今後のお客さまの動向が気になる。(置賜)
- 外出・外食の自粛と石油価格の高騰により資材等の価格が上昇しており、必然的に仕入れ値が上がっている。しかしながら、販売価格に同じ上昇率をかけることが難しい状況にある。(庄内田川)
- 原油高によりガソリン・軽油・灯油が前年より2~3割高となり、販売減となっている。休日のお客さまがコロナの影響により動きが悪く、半減している。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

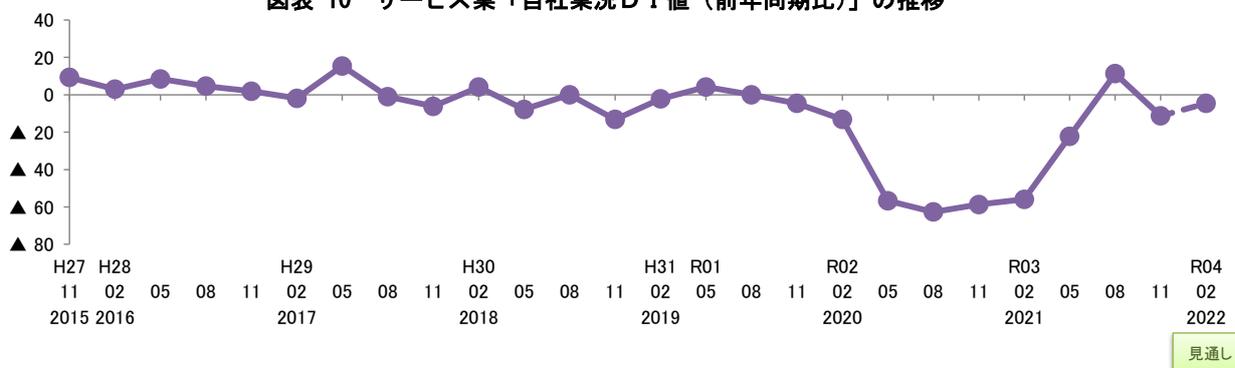
- 在庫効率を上げるために非稼働在庫を削減し、その分を年末年始の繁忙期に備えた積極的な仕入れや販売戦略に振り替える。(村山南)
- 原材料の値上げ傾向は強くなっており、製品の値上がりは避けられないと思われる。しかし、同様に末端へ値上げできるかどうかは不透明で、かえって売り上げの減少や利益率の低下が予想される。(村山南)
- カーボンニュートラルに向けて新規の事業を模索中であるが、コロナの終息状況やさまざまな経済業況が曲がり角に来ている。しっかり状況を見極めて判断したい。(村山北)
- お客さま、取引先と頻りに連絡を取るよう努める。(最上)
- 通販事業は順調だが、同業他社または新規参入業者との競争が激化している。競争激化により売上減少、広告費上昇、営業利益減少などの弊害が出てきている。(置賜)
- 来期以降もガスの価格は上昇傾向が続く見込みである。(庄内田川)
- 少子高齢化による顧客の減少が当面の間、懸念される。同水準の売り上げを維持するためのアイデアが必要である。(庄内飽海)

④ サービス業

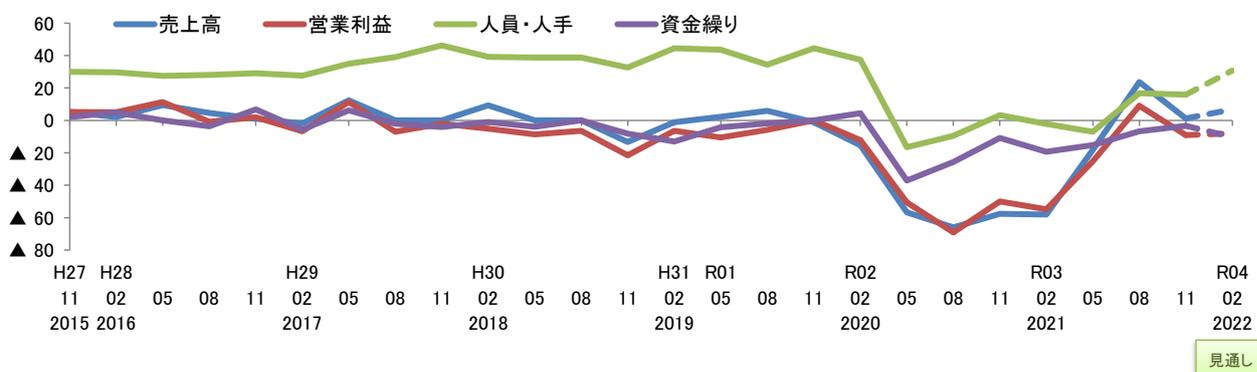
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲11.3（前回調査比 22.6 ポイント下落）と 5 期ぶりに悪化となり、マイナスに転じた。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「資金繰り」が改善となった一方で、「売上高」と「営業利益」は大幅に悪化となった。「人員・人手」は小幅ながらプラス幅が縮小した。各社のコメントから、これまで抑制傾向にあった消費マインドについて、回復の兆しはあるものの動きは未だ弱く、飲食業や宿泊業では厳しい状況が続いている様子がうかがえる。また、運送業においては、原油価格の高騰による負担増を危惧している状況が見受けられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲4.6（今回調査比 6.7 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
R 02.11 (n=92)	▲ 58.7	(4.0)	▲ 56.4	▲ 57.6	▲ 50.0	3.2	▲ 10.9
R 03.02 (n=93)	▲ 55.9	(2.8)	▲ 30.5	▲ 58.1	▲ 54.8	▲ 2.2	▲ 19.3
R 03.05 (n=99)	▲ 22.2	(33.7)	▲ 47.3	▲ 18.2	▲ 25.2	▲ 7.1	▲ 15.2
R 03.08 (n=89)	11.3	(33.5)	▲ 19.2	23.6	9.0	16.8	▲ 6.7
R 03.11 (n=88)	▲ 11.3	(▲ 22.6)	▲ 16.9	1.2	▲ 9.1	15.9	▲ 3.4
前回調査比	-	-	-	(▲ 22.4)	(▲ 18.1)	(▲ 0.9)	(3.3)
先行き見通し	▲ 4.6	-	-	6.8	▲ 8.0	30.7	▲ 10.2
今回調査比	(6.7)	-	-	(5.6)	(1.1)	(14.8)	(▲ 6.8)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 昨年のコロナ発生時と同様に運送需要は弱く、回復は見られない。さらに、売り上げ以上に問題は燃料高である。軽油が前年より平均 30 円近く上昇しており、経営を大きく圧迫している。
(村山南)
- 緊急事態宣言解除により出張や旅行需要が回復の兆しを見せ、航空搭乗客数は増えてきている。しかし、回復の度合いは緩慢で、まだしばらく時間を要するものと観測している。(村山北)
- 関東圏の受注がほとんど動いておらず厳しい状況である。反面、土木建設については、昨年の豪雨の影響で受注があり、忙しくしている。(最上)
- ハウスメーカーの進出により建売住宅の新築建売件数が増加傾向にある。土地を 2 分割 3 分割し低価格にて販売しており、学生・単身者向けのアパート建設も盛んである。(庄内田川)
- 新型コロナウイルス感染症の影響による貨物の落ち込みは少なくなってきたが、一昨年前の水準までには戻っていない。(庄内飽海)
- 宿泊はビジネス客中心に戻りつつあるが、宴会・婚礼などは全然入っていないのが現状である。
(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 非常に厳しい経営状況が続くと見ている。ただし、コロナ沈静化による消費拡大により、運送需要も回復すると期待している。(村山南)
- 来期についても原油価格が低下する見通しが立たないことから、厳しい状況になるものと推測している。(村山南)
- 少しずつ新車の納期も改善し、人やモノの動きも活発になると思われる。(村山北)
- オンライン営業ツールの活用を図る。(置賜)
- 全国的な空き家の増加が問題になる中で、その空き家の処理に関する相談業務や維持管理等から、売却または付加価値をつけての販売の強化、解体して更地として販売する業務に取り組む。
(庄内田川)
- 前年より大幅な増収増益となり、一昨年の水準まで回復した。来期も同様になると思われる。(庄内飽海)

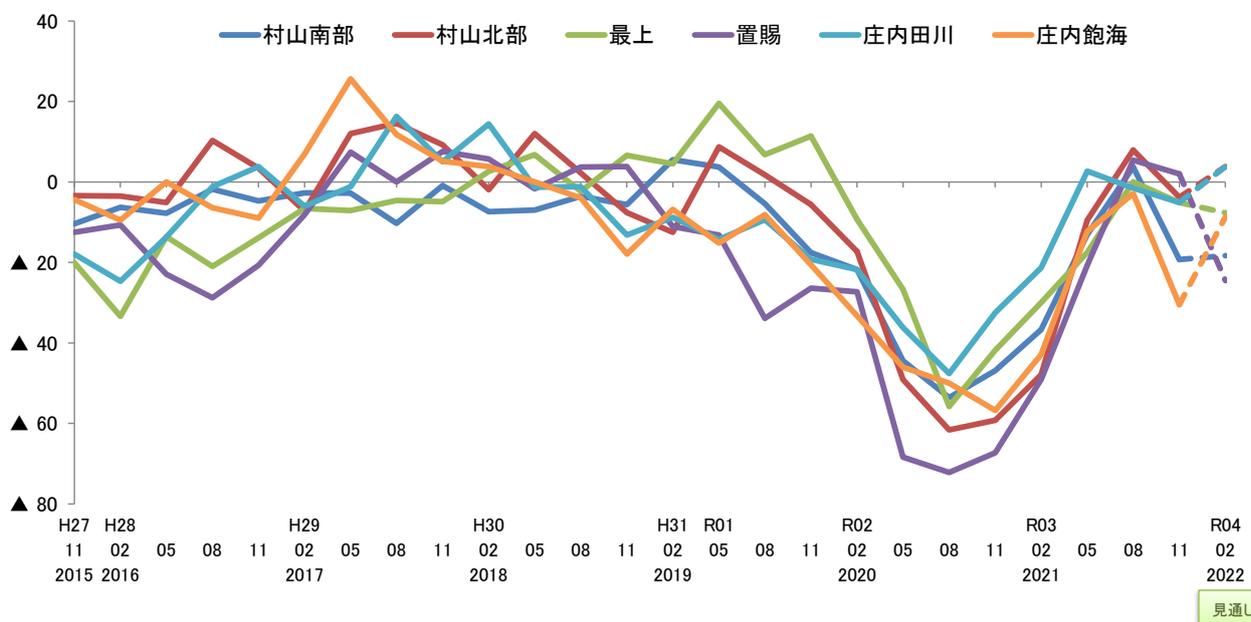
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲19.3（前回調査比 23.0 ポイント下落）、村山北部が▲3.8（前回調査比 11.7 ポイント下落）、最上が▲5.1（前回調査比 5.1 ポイント下落）、置賜が 2.0（前回調査比 3.4 ポイント下落）、庄内田川が▲5.1（前回調査比 3.6 ポイント下落）、庄内飽海が▲30.5（前回調査比 27.6 ポイント下落）と、すべての地域で悪化となった。

業況の先行き見通しをみると、最上と置賜で悪化が見込まれるものの、その他の4地域で改善が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 02.11 (n=408)	▲ 49.8	▲ 46.9	▲ 59.2	▲ 41.8	▲ 67.3	▲ 32.5	▲ 56.8
R 03.02 (n=397)	▲ 37.2	▲ 36.7	▲ 47.9	▲ 30.0	▲ 49.1	▲ 21.3	▲ 42.9
R 03.05 (n=409)	▲ 11.0	▲ 13.1	▲ 9.5	▲ 17.5	▲ 20.7	2.7	▲ 12.3
R 03.08 (n=393)	2.0	3.7	7.9	0.0	5.4	▲ 1.5	▲ 2.9
R 03.11 (n=398)	▲ 12.3	▲ 19.3	▲ 3.8	▲ 5.1	2.0	▲ 5.1	▲ 30.5
前回調査比	(▲ 14.3)	(▲ 23.0)	(▲ 11.7)	(▲ 5.1)	(▲ 3.4)	(▲ 3.6)	(▲ 27.6)
先行き見通し	▲ 9.1	▲ 18.3	3.8	▲ 7.7	▲ 24.5	3.8	▲ 8.7
今回調査比	(3.2)	(1.0)	(7.6)	(▲ 2.6)	(▲ 26.5)	(8.9)	(21.8)

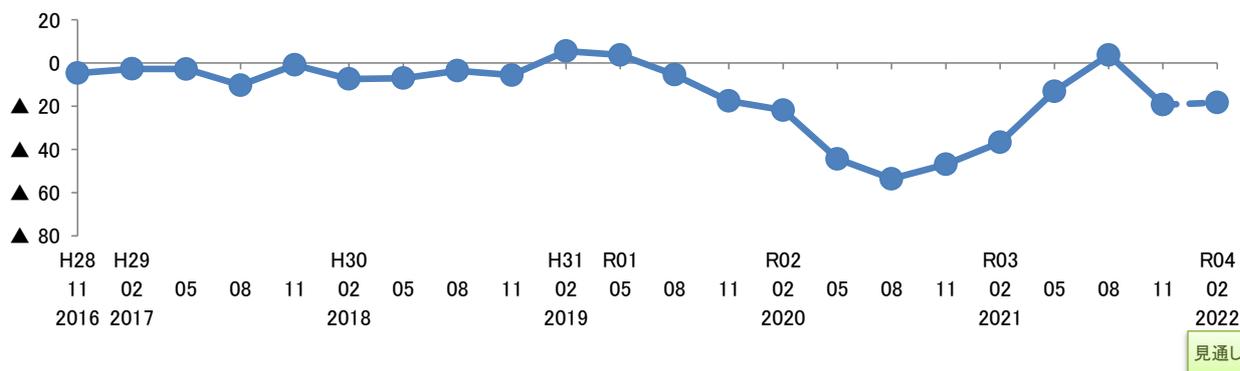
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

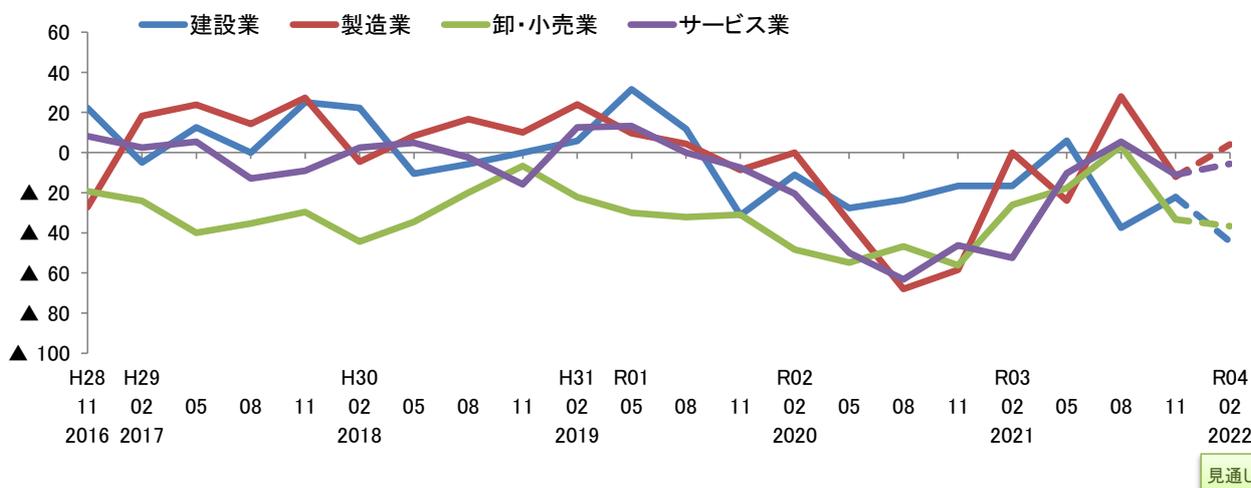
「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」は▲19.3 (前回調査比 23.0 ポイント下落) と 5 期ぶりに悪化となった。業種別にみると、建設業で大幅な改善、その他の 3 業種で大幅な悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲18.3 (今回調査比 1.0 ポイント上昇) と小幅ながら改善の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値 (前年同期比)」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値 (前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

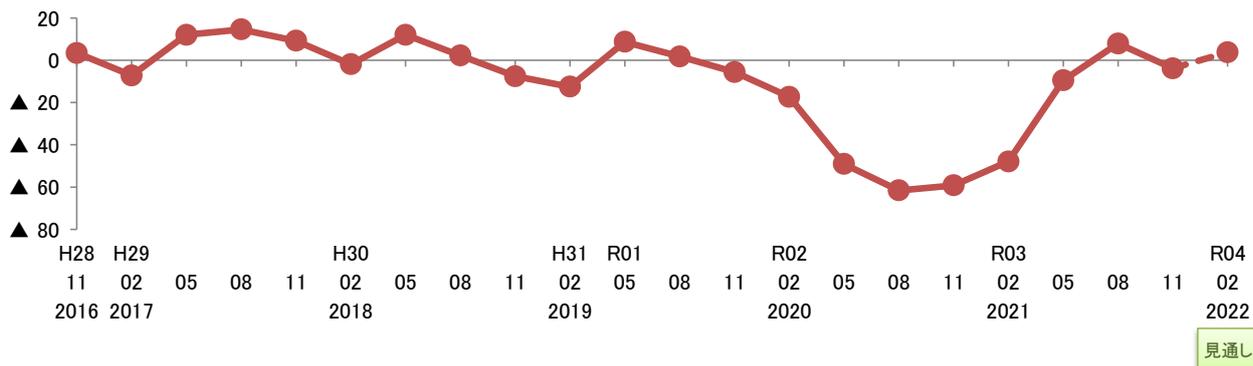
村山南部 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			業種別/自社業況 (前年同期比)			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 11 (n=113)	▲ 46.9	(6.7)	▲ 46.3	▲ 16.6	▲ 58.4	▲ 56.2	▲ 46.2
R 03. 02 (n=109)	▲ 36.7	(10.2)	▲ 26.5	▲ 16.7	0.0	▲ 26.0	▲ 52.5
R 03. 05 (n=115)	▲ 13.1	(23.6)	▲ 28.5	5.9	▲ 24.0	▲ 17.7	▲ 10.3
R 03. 08 (n=108)	3.7	(16.8)	▲ 16.5	▲ 37.5	28.0	3.3	5.4
R 03. 11 (n=109)	▲ 19.3	(▲ 23.0)	▲ 17.6	▲ 22.2	▲ 12.0	▲ 33.3	▲ 11.1
前回調査比	-	-	-	(15.3)	(▲ 40.0)	(▲ 36.6)	(▲ 16.5)
先行き見通し	▲ 18.3	-	-	▲ 44.4	4.0	▲ 36.7	▲ 5.6
今回調査比	(1.0)	-	-	(▲ 22.2)	(16.0)	(▲ 3.4)	(5.5)

② 村山北部

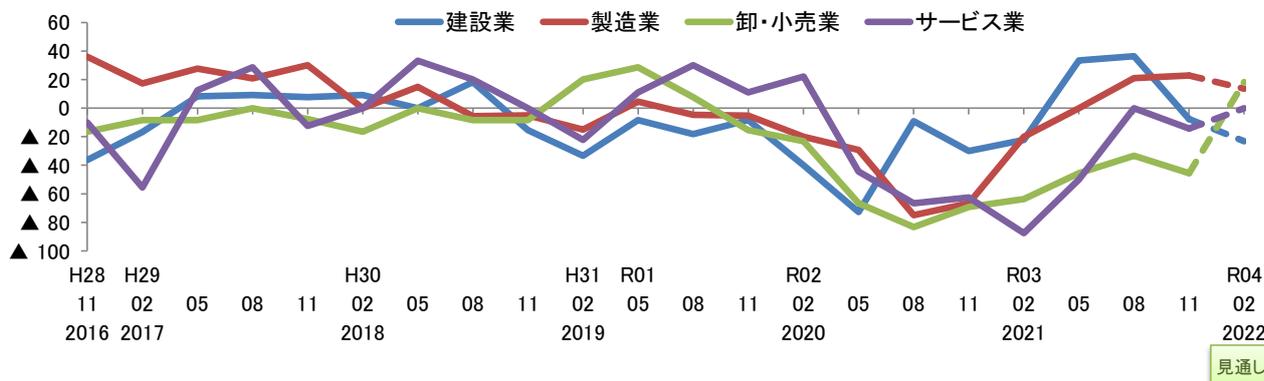
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲3.8（前回調査比 11.7 ポイント下落）と 5 期ぶりに悪化した。業種別にみると、製造業で小幅ながら改善となった一方で、その他の 3 業種では悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が 3.8（今回調査比 7.6 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

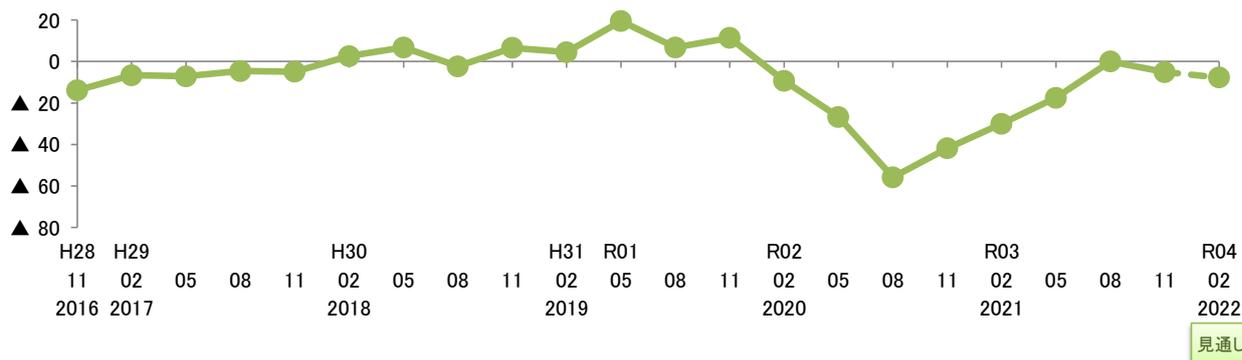
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 11 (n=49)	▲ 59.2	(2.4)	▲ 57.7	▲ 30.0	▲ 66.7	▲ 69.2	▲ 62.5
R 03. 02 (n=48)	▲ 47.9	(11.3)	▲ 30.7	▲ 22.2	▲ 20.0	▲ 63.6	▲ 87.5
R 03. 05 (n=53)	▲ 9.5	(38.4)	▲ 39.6	33.4	0.0	▲ 45.5	▲ 50.0
R 03. 08 (n=51)	7.9	(17.4)	13.2	36.4	21.0	▲ 33.4	0.0
R 03. 11 (n=53)	▲ 3.8	(▲ 11.7)	▲ 9.8	▲ 7.7	22.8	▲ 45.5	▲ 14.3
前回調査比	-	-	-	(▲ 44.1)	(1.8)	(▲ 12.1)	(▲ 14.3)
先行き見通し	3.8	-	-	▲ 23.1	13.7	18.2	0.0
今回調査比	(7.6)	-	-	(▲ 15.4)	(▲ 9.1)	(63.7)	(14.3)

③ 最上

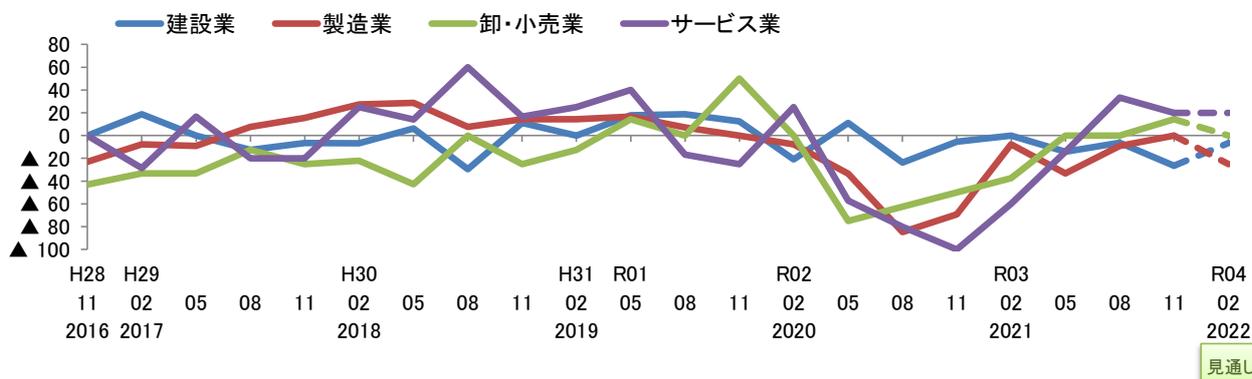
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲5.1（前回調査比5.1ポイント下落）と5期ぶりに悪化した。業種別にみると、建設業とサービス業で悪化となった一方で、製造業と卸・小売業では改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲7.7（今回調査比2.6ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 17 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

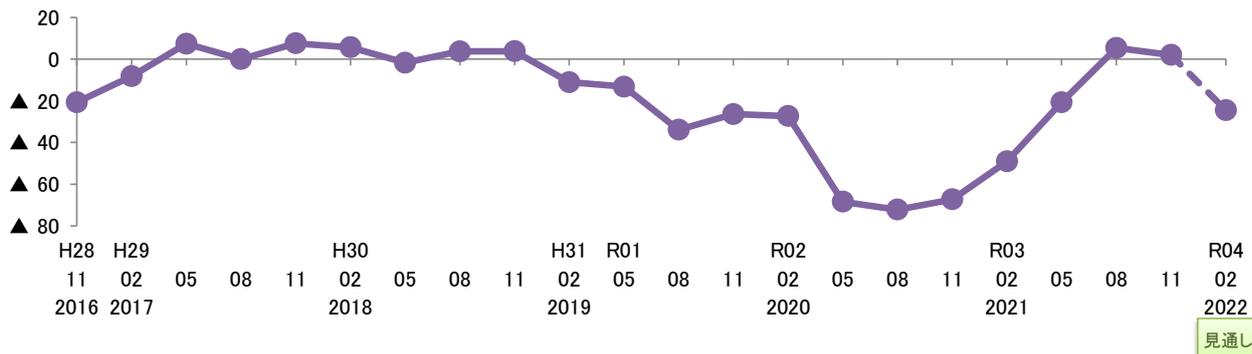
最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 11 (n=43)	▲ 41.8	(14.0)	▲ 39.5	▲ 5.5	▲ 69.2	▲ 50.0	▲ 100.0
R 03. 02 (n=40)	▲ 30.0	(11.8)	▲ 27.9	0.0	▲ 7.7	▲ 37.5	▲ 60.0
R 03. 05 (n=40)	▲ 17.5	(12.5)	▲ 40.0	▲ 14.3	▲ 33.3	0.0	▲ 14.3
R 03. 08 (n=41)	0.0	(17.5)	▲ 35.0	▲ 6.3	▲ 9.1	0.0	33.3
R 03. 11 (n=39)	▲ 5.1	(▲ 5.1)	▲ 14.6	▲ 26.6	0.0	14.3	20.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 20.3)	(9.1)	(14.3)	(▲ 13.3)
先行き見通し	▲ 7.7	-	-	▲ 6.6	▲ 25.0	0.0	20.0
今回調査比	(▲ 2.6)	-	-	(20.0)	(▲ 25.0)	(▲ 14.3)	(0.0)

④ 置 賜

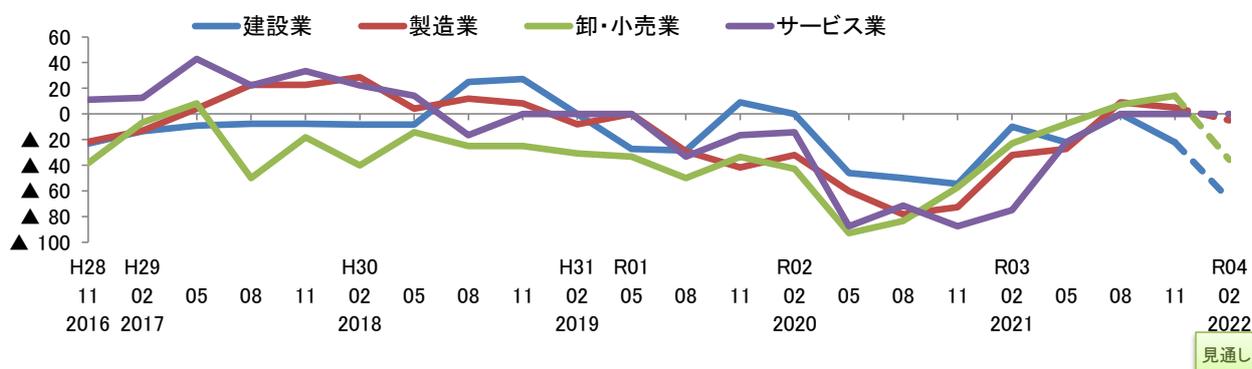
「自社の業況DI値（前年同期比）」は2.0（前回調査比3.4ポイント下落）と5期ぶりに悪化となった。業種別にみると、サービス業は横ばい、建設業と製造業で悪化、卸・小売業で改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲24.5（今回調査比26.5ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

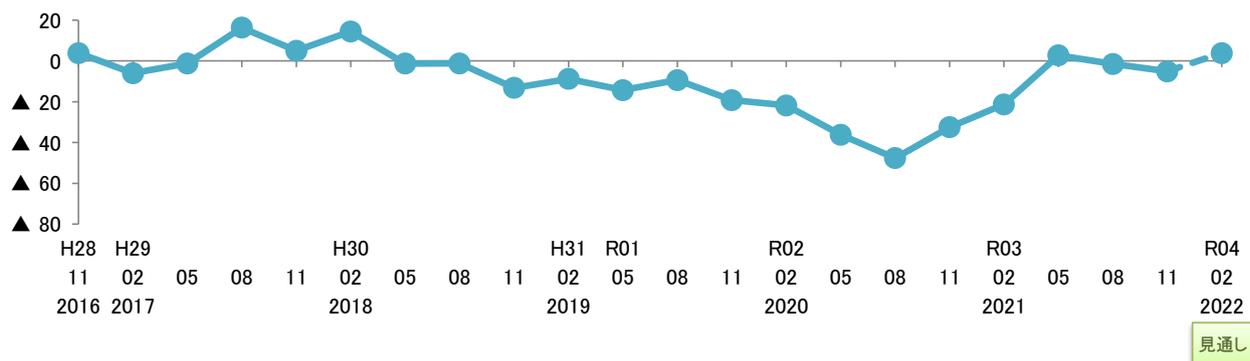
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 11 (n=55)	▲ 67.3	(4.9)	▲ 48.1	▲ 54.5	▲ 72.7	▲ 57.1	▲ 87.5
R 03. 02 (n=55)	▲ 49.1	(18.2)	▲ 27.3	▲ 10.0	▲ 32.0	▲ 23.0	▲ 75.0
R 03. 05 (n=53)	▲ 20.7	(28.4)	▲ 54.5	▲ 22.2	▲ 27.3	▲ 7.7	▲ 22.2
R 03. 08 (n=56)	5.4	(26.1)	▲ 30.2	0.0	9.1	7.1	0.0
R 03. 11 (n=49)	2.0	(▲ 3.4)	▲ 17.9	▲ 22.2	5.0	14.3	0.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 22.2)	(▲ 4.1)	(7.2)	(0.0)
先行き見通し	▲ 24.5	-	-	▲ 66.7	▲ 5.0	▲ 35.7	0.0
今回調査比	(▲ 26.5)	-	-	(▲ 44.5)	(▲ 10.0)	(▲ 50.0)	(0.0)

⑤ 庄内田川

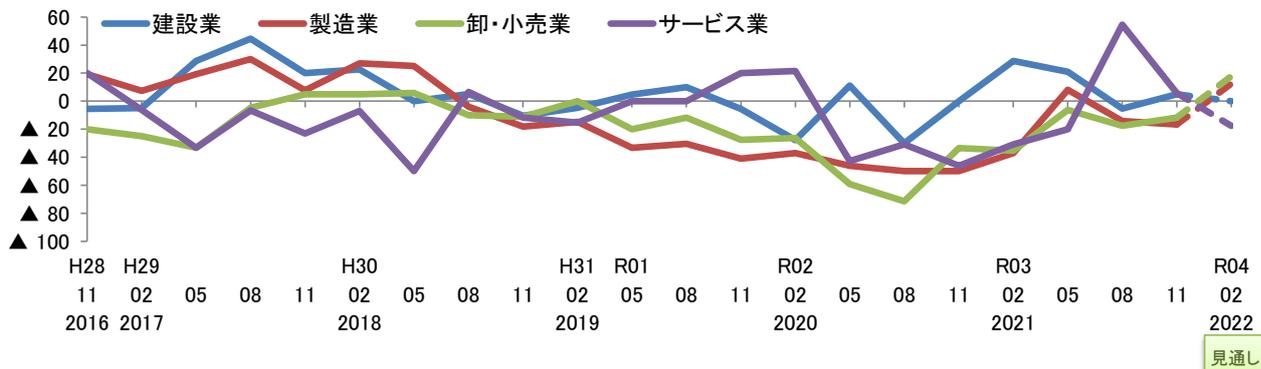
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲5.1（前回調査比 3.6 ポイント下落）と 2 期連続の悪化となった。業種別にみると、建設業と卸・小売業で改善、製造業とサービス業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が 3.8（今回調査 8.9 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 21 庄内田川「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

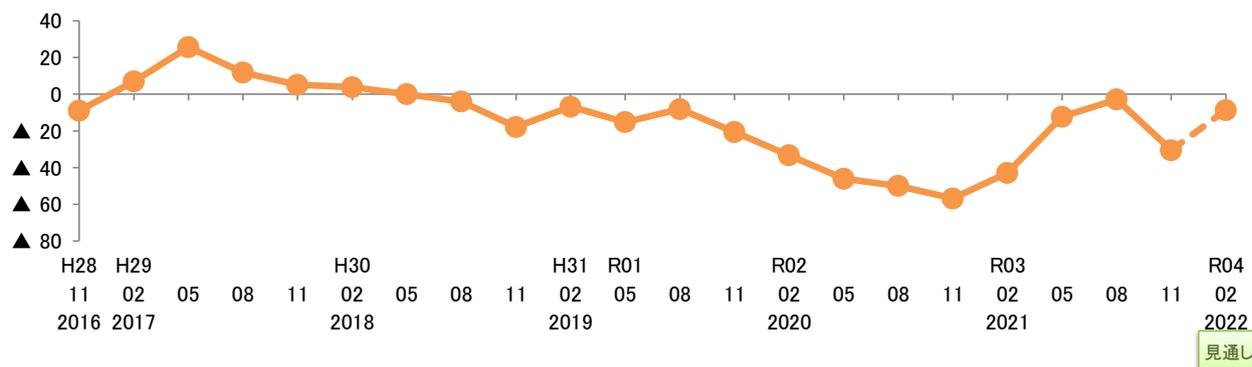
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 11 (n=74)	▲ 32.5	(15.1)	▲ 51.3	0.0	▲ 50.0	▲ 33.4	▲ 46.1
R 03. 02 (n=75)	▲ 21.3	(11.2)	▲ 22.9	28.6	▲ 37.0	▲ 35.3	▲ 30.8
R 03. 05 (n=75)	2.7	(24.0)	▲ 41.3	21.0	8.0	▲ 6.3	▲ 20.0
R 03. 08 (n=68)	▲ 1.5	(▲ 4.2)	▲ 17.4	▲ 5.3	▲ 14.3	▲ 17.7	54.5
R 03. 11 (n=79)	▲ 5.1	(▲ 3.6)	▲ 10.3	4.8	▲ 16.7	▲ 11.8	5.9
前回調査比	-	-	-	(10.1)	(▲ 2.4)	(5.9)	(▲ 48.6)
先行き見通し	3.8	-	-	0.0	12.5	17.7	▲ 17.6
今回調査比	(8.9)	-	-	(▲ 4.8)	(29.2)	(29.5)	(▲ 23.5)

⑥ 庄内飽海

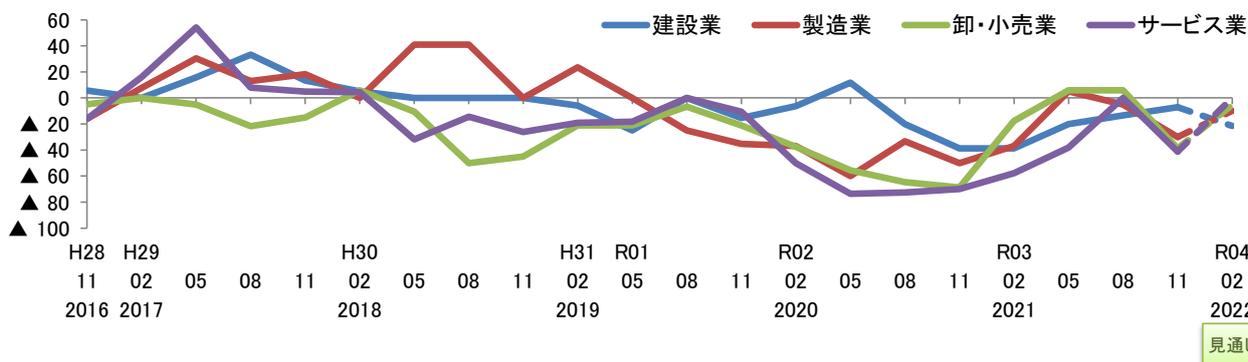
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲30.5（前回調査比 27.6 ポイント下落）と 4 期ぶりの悪化となった。業種別にみると、建設業で改善となり、その他の 3 業種で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲8.7（今回調査比 21.8 ポイント上昇）と大幅な改善が見込まれている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 02. 11 (n=74)	▲ 56.8	(▲ 6.8)	▲ 59.7	▲ 38.8	▲ 50.0	▲ 68.8	▲ 70.0
R 03. 02 (n=70)	▲ 42.9	(13.9)	▲ 37.8	▲ 38.8	▲ 36.9	▲ 17.6	▲ 57.9
R 03. 05 (n=73)	▲ 12.3	(30.6)	▲ 42.8	▲ 20.0	5.0	5.9	▲ 38.1
R 03. 08 (n=69)	▲ 2.9	(9.4)	▲ 15.1	▲ 13.3	▲ 5.0	5.9	0.0
R 03. 11 (n=69)	▲ 30.5	(▲ 27.6)	▲ 20.3	▲ 7.1	▲ 30.0	▲ 38.8	▲ 41.1
前回調査比	-	-	-	(6.2)	(▲ 25.0)	(▲ 44.7)	(▲ 41.1)
先行き見通し	▲ 8.7	-	-	▲ 21.4	▲ 10.0	▲ 5.5	0.0
今回調査比	(21.8)	-	-	(▲ 14.3)	(20.0)	(33.3)	(41.1)

II. 景気天気予報図

山形県

今期の業況 → 来期の見通し

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

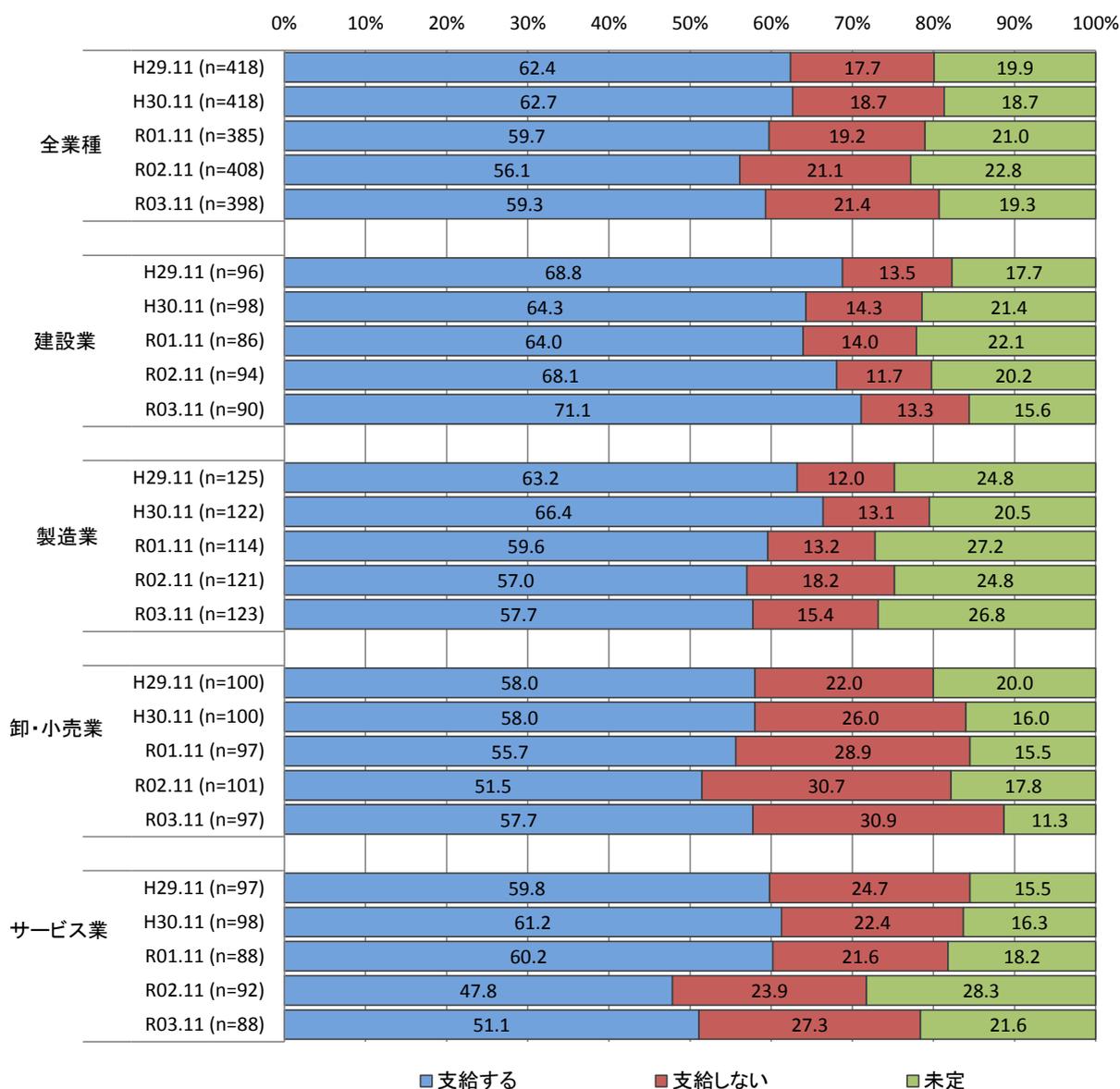
1. 冬季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種で見ると「支給する」と回答した企業の割合は 59.3%（前年比 3.2 ポイント上昇）と、3 年ぶりに上昇となった。

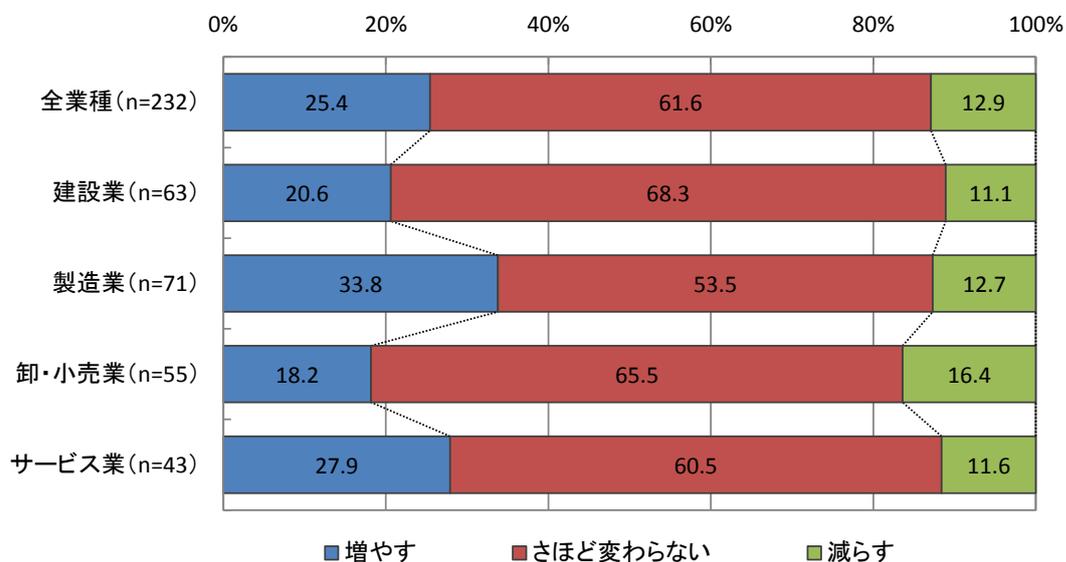
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 71.1%（前年比 3.0 ポイント上昇）、製造業が 57.7%（前年比 0.7 ポイント上昇）、卸・小売業が 57.7%（前年比 6.2 ポイント上昇）、サービス業が 51.1%（前年比 3.3 ポイント上昇）と、すべての業種で前年から上昇となった。

図表 25 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種で見ると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、61.6%であった。業種別にみると、製造業で「増やす」の割合が他業種に比べて高くなっている。

図表 26 業種別 「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」



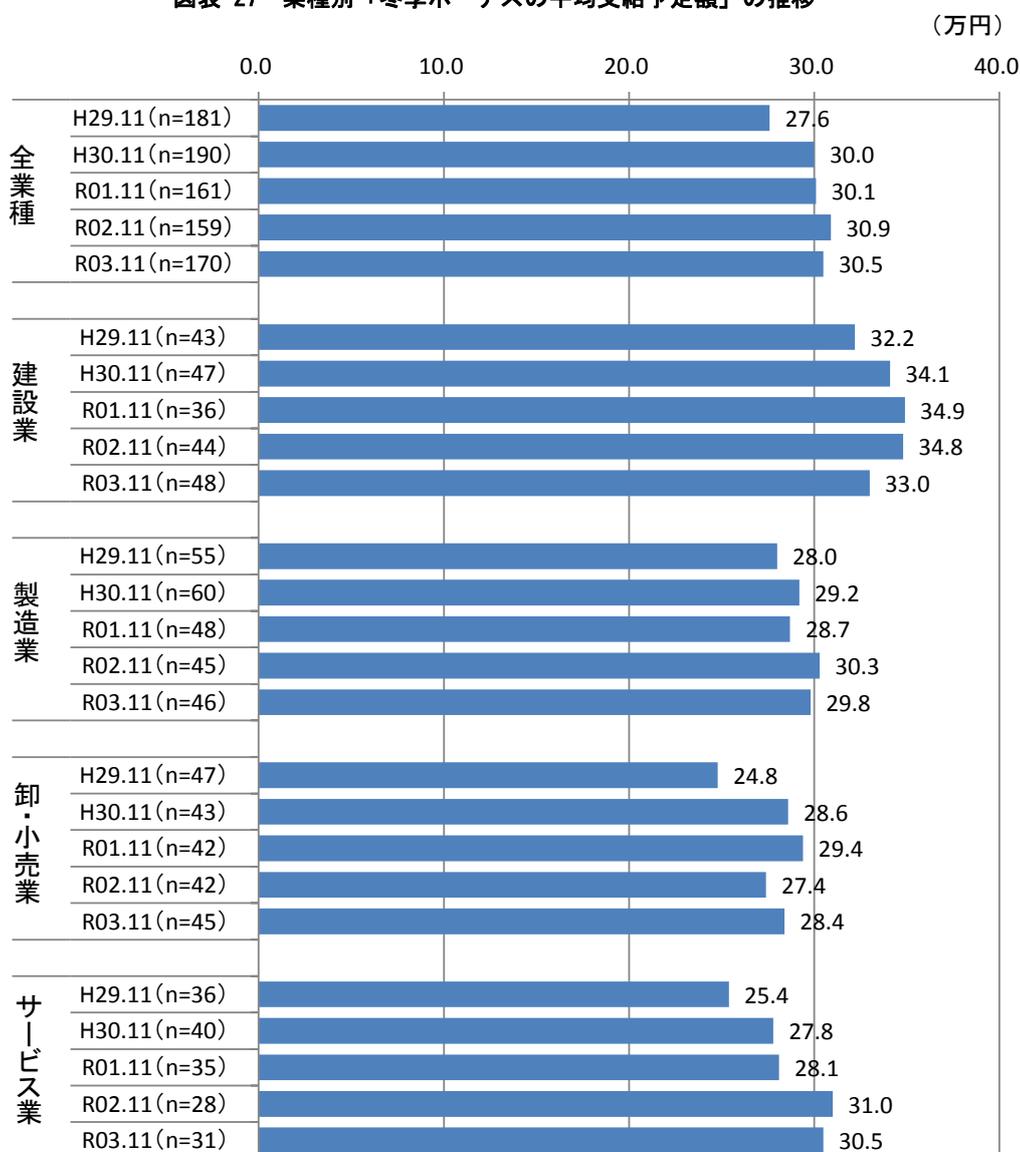
(2) 支給予定額

冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 30.5 万円となり、前年に比べ 0.4 万円の減少となった。業種別にみると、前年に比べ、卸・小売業で増加し、その他の 3 業種で減少した。平均支給予定額が最も高いのは建設業で 33.0 万円となり、最も低いのは卸・小売業で 28.4 万円であった。

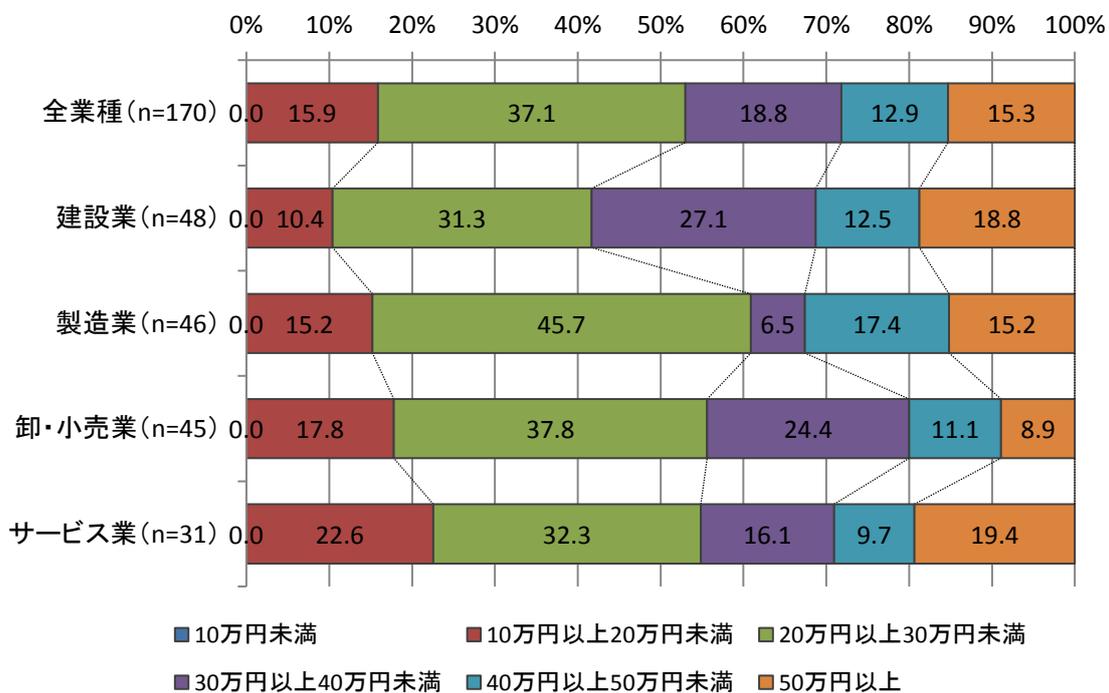
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」の割合が最も高く、37.1%となっている。(図表 28)

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」の割合が最も高く、38.5%となっている。業種別にみると、卸・小売業では、2.0 カ月以上を支給する企業の割合が他の業種に比べて低くなっている。(図表 29)

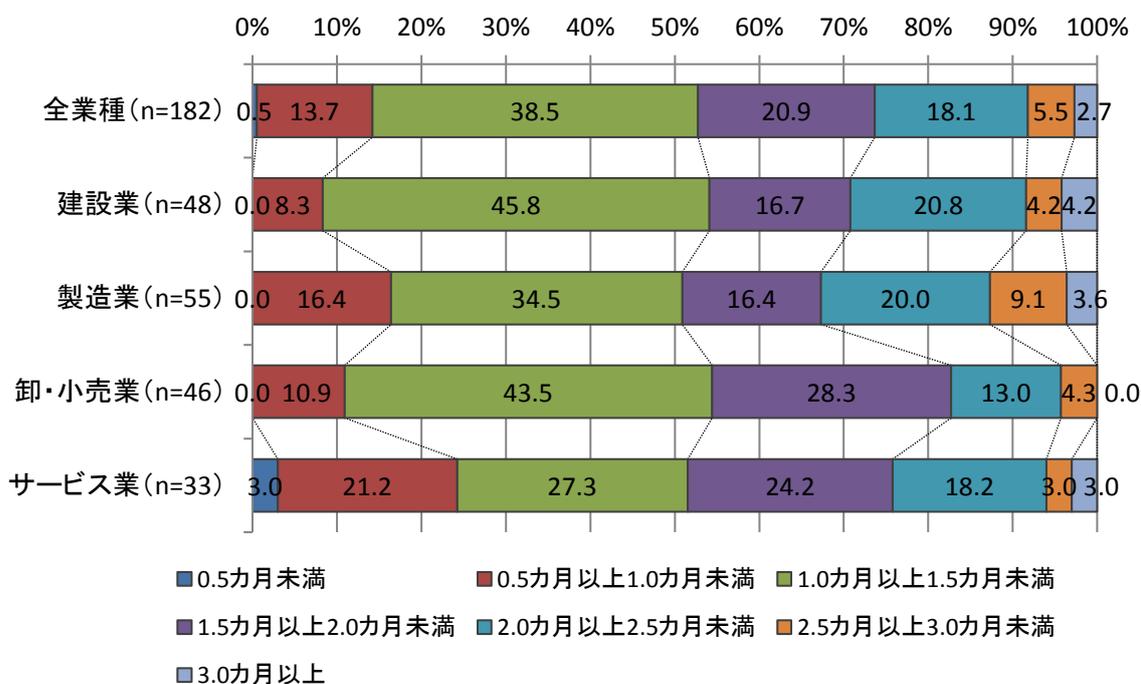
図表 27 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移



図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 29 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	22	35	44	53	154
村山北部	20	32	17	17	86
最上	21	18	10	17	66
置賜	23	27	25	12	87
庄内田川	29	37	28	28	122
庄内飽海	34	32	31	36	133
合計	149	181	155	163	648

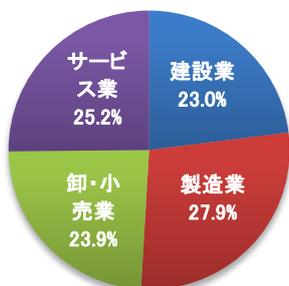
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	18	25	30	36	109
村山北部	13	22	11	7	53
最上	15	12	7	5	39
置賜	9	20	14	6	49
庄内田川	21	24	17	17	79
庄内飽海	14	20	18	17	69
合計	90	123	97	88	398

(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	81.8	71.4	68.2	67.9	70.8
村山北部	65.0	68.8	64.7	41.2	61.6
最上	71.4	66.7	70.0	29.4	59.1
置賜	39.1	74.1	56.0	50.0	56.3
庄内田川	72.4	64.9	60.7	60.7	64.8
庄内飽海	41.2	62.5	58.1	47.2	51.9
合計	60.4	68.0	62.6	54.0	61.4

サンプル割合（業種別）



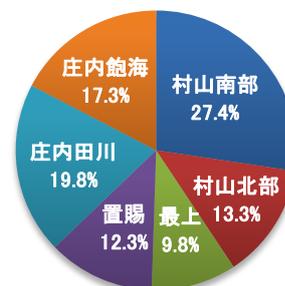
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 3 年 11 月 1 日(月)～16 日(火)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp

URL : <https://www.fir.co.jp/>